

病防第74号  
令和元年（2019年）8月14日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

トビイロウンカの発生状況および防除（技術情報第6号）について（送付）

トビイロウンカの飛来状況および防除時期については、令和元年（2019年）7月18日付け注意報第1号および7月25日付け注意報第2号を公表しましたが、その後の発生状況および防除について下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考として御活用ください。

#### 記

8月上旬に実施した調査によれば、早植えおよび普通期水稻におけるトビイロウンカの発生量は平年より多く、防除が必要なほ場が多くみられました。今後の気象は本虫の増殖に好適な条件で、さらに密度が高まることが予想されるため、適期防除を徹底しましょう。

トビイロウンカの本田での発生状況を把握するため、8月6～9日に県内51か所のほ場で払落し調査を行った。

#### 1 発生状況

- (1) 早植え水稻（24ほ場）での発生ほ場率は83.3%（平年59.1%）で平年よりやや高く、10株当たり成幼虫数は74.8頭（平年2.6頭）で平年より多く、約4割のほ場で要防除水準（収穫30日前：30頭/10株）を超えていた（表1、図1）。発生ほ場では成虫～幼虫の全ステージが確認され、阿蘇地域以外では、6月7日飛来個体群の第二世代幼虫、7月1日飛来個体群の第一世代成虫、7月14日飛来個体群の第一世代幼虫、阿蘇地域では、6月7日飛来個体群の第一世代成虫、7月1日飛来個体群、7月14日飛来個体群の第一世代幼虫が混在していると推定される。よって、早植え水稻では、3波の飛来個体群が定着していると考えられる（図2、3、4）。
- (2) 普通期水稻（27ほ場）での発生ほ場率は40.7%（平年31.4%）で平年よりやや高く、10株当たり成幼虫数は5.7頭（平年0.6頭）で平年より多く、約2割のほ場で要防除水準（7月中旬～8月上旬：2頭/10株）を超えていた（表1、図1）。発生ほ場では成虫～幼虫の全ステージが確認され、7月1日飛来個体群の第一世代成虫、7月14日飛来個体群の第一世代幼虫が混在していると推定される。トビイロウンカが確認されたほ場の約6割は成虫、幼虫とも確認されていることから、2波の飛来個体群が定着していると考えられる（図3、4）。

## 2 防除対策

本田での発生は平年より多く、福岡管区気象台が8月8日に発表した九州北部地方の気象予報によると向こう1ヶ月の気温は平年より高い予想で、トビイロウンカの増殖に好適な条件となり、さらに密度が高まると予想されるため、以下に注意して防除を行う。

- (1) 6月7日、7月1日、7月14日の飛来個体を対象として予想される各地域の防除適期（第二世代幼虫）は表2のとおりである。今後の気象条件によっては、防除適期がずれる可能性があるため、最新の防除適期を病害虫防除所のホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/>）で確認する。
- (2) トビイロウンカは増殖率が高く、現在低密度のほ場でも8月下旬以降は高密度となり坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的にはほ場の発生状況を観察し、要防除水準（8月中～下旬(10頭/10株)、収穫30日前(30頭/10株)）を超えた場合は直ちに防除する。
- (3) 早植え水稻では、収穫前使用日数に注意して防除を行い、刈り遅れがないように適期に収穫する。
- (4) 粉剤及び液剤は、トビイロウンカが多く生息する株元に付着するよう散布する。
- (5) トビイロウンカは、イミダクロプリド剤やBPMC剤に対する感受性が低下している（平成30年3月14日付技術情報第14号 [http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/H29/yosatu/180314gi\\_jyutu.pdf](http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto/H29/yosatu/180314gi_jyutu.pdf) 参照）ので、防除に使用する薬剤の選定には注意する。
- (6) 飼料用米等の多肥栽培や栽培期間の長い品種では、多発する傾向があるので注意する。
- (7) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

表1 トビイロウンカの発生状況  
10株当たり虫数

地点名	成虫				幼虫			計	
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢		
山鹿市鹿北1	6.7	3.3	17.3	35.3	22.7	68.0	32.0	185.3	
山鹿市鹿北2	2.7	0	10.7	10.7	2.7	50.0	40.7	117.3	
山鹿市菊鹿1	0	0	0	0.7	0	0.3	1.0	2.0	
山鹿市菊鹿2	0.3	0	0	0	0	0	0	0.3	
阿蘇市内牧1	0	0	0.7	0.3	0	0.7	0	1.7	
阿蘇市内牧2	0	0	0	0	0	0	0	0	
南小国町1	0	0	0	0	0	0	0	0	
南小国町2	0	0	0.7	1.0	0	0	0	1.7	
南阿蘇村1	0	0.3	0.3	1.0	0.3	1.3	0	3.3	
南阿蘇村2	0	0	0	0	1.0	2.3	28.0	31.3	
南阿蘇村久木野1	0	0	0	0.3	0	0.7	0	1.0	
南阿蘇村久木野2	0.7	0	1.7	4.0	0.3	15.0	5.7	27.3	
山都町入佐1	5.0	0	12.7	17.7	0	2.7	0.3	38.3	
山都町入佐2	1.3	0	4.3	12.3	0.3	6.0	3.7	28.0	
甲佐町早川1	0.7	0	0	1.0	0	0.3	3.0	5.0	
甲佐町早川2	0	0	0	0	0	0	0	0	
八代市二見町1	1.0	0	1.3	5.0	13.7	0.3	1.7	23.0	
八代市二見町2	0	0	0	0	0	0	0	0	
芦北町大野1	2.0	0.3	0.3	0.3	0.7	9.7	72.0	85.3	
芦北町大野2	8.7	6.0	4.7	11.7	2.7	36.0	802.7	872.3	
錦町1	0	0.4	0	0	0	0.4	10.8	11.6	
錦町2	0	0	1.2	1.6	0	0.4	41.2	44.4	
あさぎり町1	28.8	16.0	49.6	60.8	2.4	32.0	4.0	193.6	
あさぎり町2	35.2	18.4	14.4	28.0	0	18.4	8.8	123.2	
<b>平均(24ほ場)</b>	3.9	1.9	5.0	8.0	1.9	10.2	44.0		
	成虫 計			18.7	幼虫 計		56.1		
<b>計(成虫・幼虫)</b>								<b>74.8</b>	
<b>平年<sup>注4)</sup></b>								<b>2.6</b>	
<b>発生ほ場率</b>								<b>83.3%</b>	
<b>平年の発生ほ場率</b>								<b>59.1%</b>	

注1) 1ほ場につき30株調査。

錦町、あさぎり町は25株調査。

注2) 早植え水稻(6月上旬までの移植)

普通期水稻(6月中旬以降の移植)

注3) 計はラウンドの関係で一致しない

注4) 平年値は2011年を除く過去9年

地点名	成虫				幼虫			計	
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢		
熊本市画図1	0	0	0	0	0	0	0	0	
熊本市画図2	0	0	0	0	0	0	0	0	
熊本市中無田1	0	0	0	0	0	0	0	0	
熊本市中無田2	0	0	0	0	0	0	0	0	
熊本市富合町新1	0	0	0	0	0	0	0	0	
熊本市富合町新2	0	0	0	0	0	0	0	0	
宇城市松橋町1	0	0	0	0	0	0	0	0	
宇城市松橋町2	0	0	0	0	0	0	0	0	
玉名市北牟田1	0.3	0	0	0.3	0	0.7	0	1.3	
玉名市北牟田2	0	0.3	0	0	0	0	0	0.3	
玉名市横島1	0	0	0	0	0	0	0	0	
玉名市横島2	0	0	0	0	0	0.7	1.0	1.7	
山鹿市南島1	0	0	0	0	0	0	0	0	
山鹿市南島2	0	0	0	0	0	0	0	0	
山鹿市鹿本1	0	0	0	0	0	0	0	0	
山鹿市鹿本2	0	0	0	0	0	0	0	0	
菊池市赤星1	0	0	0	0	0	0	0	0	
菊池市赤星2	0	0.3	0	0.3	0	1.3	0.7	2.7	
大津町新1	1.0	0	1.0	2.0	0	2.3	1.7	8.0	
大津町新2	0	0	0	0	0	0	0	0	
嘉島町下仲間1	0	0.3	0	0	0	0	0	0.3	
嘉島町下仲間2	0	0	0	0	0	0	0	0	
八代市高田1	0	0	0.7	1.0	0.7	2.3	70.3	75.0	
八代市高田2	0	0	0	0.3	0.3	0.3	29.3	30.3	
氷川町1	1.0	4.0	0	0	0	0	26.7	31.7	
芦北町花岡1	0	0	0	0.3	0	0	1.7	2.0	
芦北町花岡2	0	0	0	0	0	0	0.7	0.7	
<b>平均(27ほ場)</b>	0.1	0.2	0.1	0.2	0.04	0.3	4.9		
	成虫 計			0.5	幼虫 計		5.2		
<b>計(成虫・幼虫)</b>								<b>5.7</b>	
<b>平年<sup>注4)</sup></b>								<b>0.6</b>	
<b>発生ほ場率</b>								<b>40.7%</b>	
<b>平年の発生ほ場率</b>								<b>31.4%</b>	

普通期  
注2)

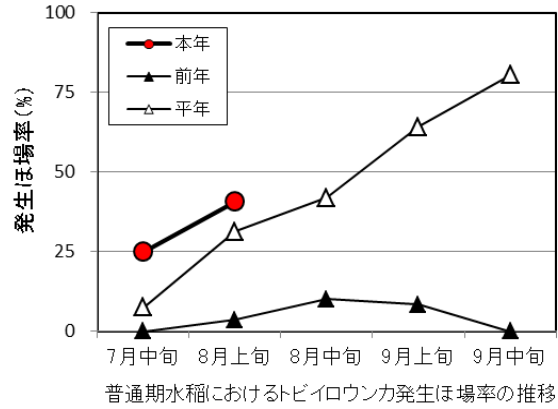
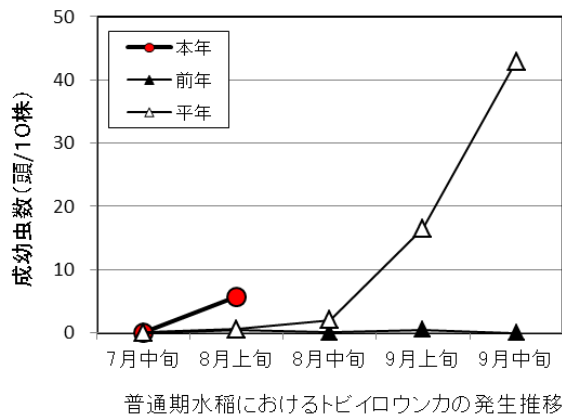
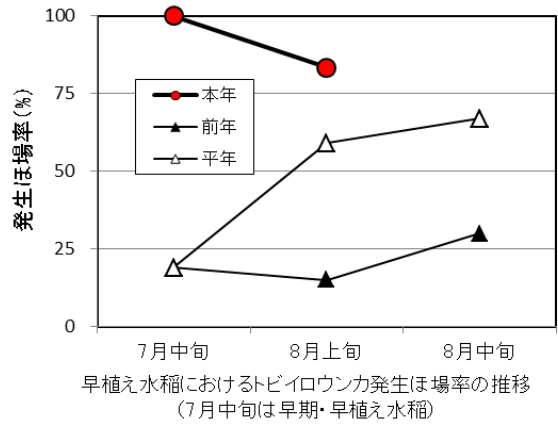
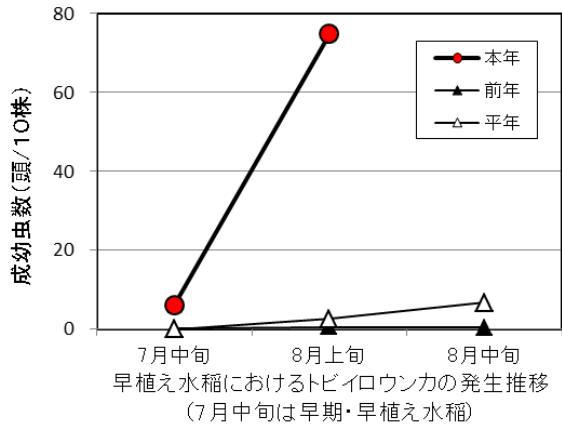


図1 早植えおよび普通期水稲でのトビロウソウの発生推移 (左: 成幼虫数、右: 発生ほ場率)

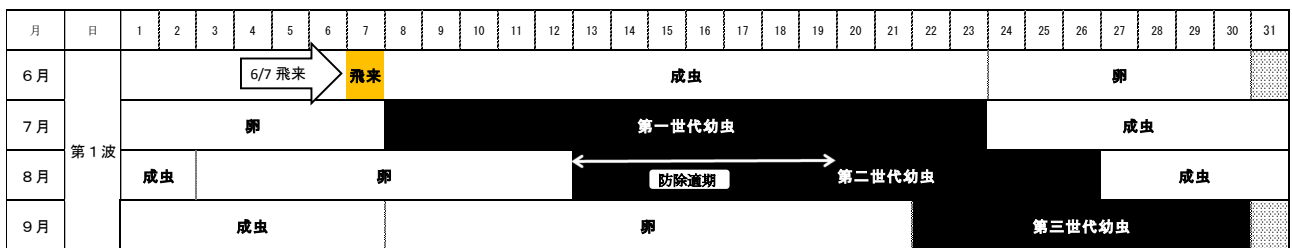


図2 トビロウソウのステージ発生予測 (阿蘇乙姫のアメダスデータから計算)

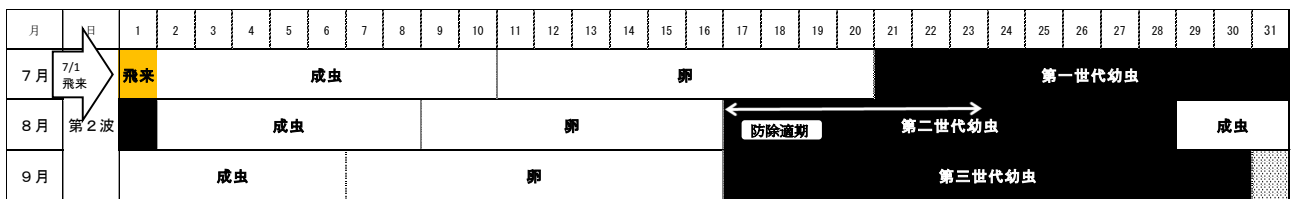


図3 トビロウソウのステージ発生予測 (熊本市のアメダスデータから計算)

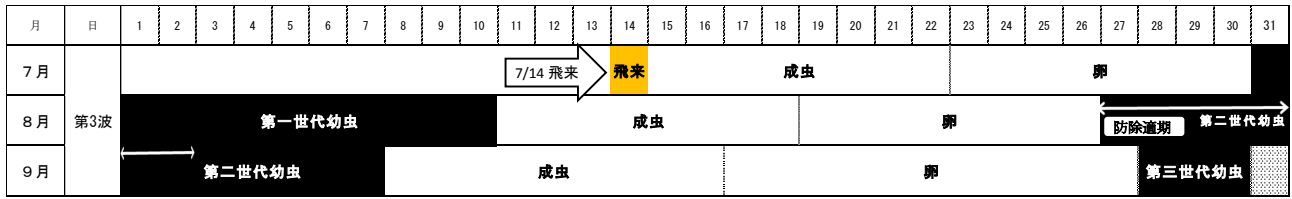


図4 トビイロウンカのステージ発生予測（熊本市のアメダスデータから計算）

表2 予想されるトビイロウンカの防除適期<sup>注)</sup>

（6月7日飛来）

地点	防除適期 <sup>注)</sup> (第二世代幼虫)
阿蘇乙姫	8月13～19日

（7月1日飛来）

地点	防除適期 <sup>注)</sup> (第二世代幼虫)
熊本	8月17～23日
三角	8月19～25日
岱明	8月17～23日
鹿北	8月22～28日
菊池	8月19～25日
阿蘇乙姫	8月30日～9月5日
甲佐	8月20～26日
八代	8月19～25日
水俣	8月20～26日
人吉	8月22～28日
本渡	8月21～27日

（7月14日飛来）

地点	防除適期 <sup>注)</sup> (第二世代幼虫)
熊本	8月27日～9月2日
三角	8月28日～9月3日
岱明	8月28日～9月3日
鹿北	9月2～8日
菊池	8月28日～9月3日
阿蘇乙姫	9月10～16日
甲佐	8月30日～9月5日
八代	8月30日～9月5日
水俣	8月30日～9月5日
人吉	8月31日～9月6日
本渡	8月31日～9月6日

注)・6月7日、7月1日、7月14日を起点として、各地点のアメダスデータ（8月12日までは今年の実データ、8月13日以降は平年値）をもとに、有効積算で今後の発育ステージを予測した。

・有効積算は下記の条件で行った。

ステージ	有効積算温度（日度）	発育0点（℃）
成虫	125	12.0
卵	135	11.4
幼虫	250	6.5

熊本県病害虫防除所  
 （熊本県農業研究センター  
 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係）  
 担当：坂本・作本  
 TEL 096-248-6490